

事業所における自己評価結果(公表)

公表年月日: 令和2年3月19日

事業所名 放課後等デイサービスあおば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		スペースが確保されている。	
	2	職員の配置数は適切である	5		適切に配置されている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	入り口など一部狭い場所がある。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		全員が自由に建設的な意見を述べている。	もっと多くの職員が参画できるとよい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		送迎時や担当者会議等で保護者の意向を把握して、業務改善につなげている。	アンケート用紙なども活用しながらより良いサービスが提供できるよう努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3	今年度開所のため、ホームページ等の情報が少ない。	今後公開する予定
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		必要に応じて第三者による外部評価を行い、業務改善につなげていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		オンライン動画による研修や講師を招いての内部研修など行っている。	研修の回数を増やしていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		・適宜、利用児や保護者と情報の共有を図っている。	・チームでケース会議を行い、各専門分野の意見を取り入れた上で、適切な計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	・実施しているが、多角的な視点でのアセスメントツールがあれば、活用していきたい。	・身体的な目標は高く持っても精神能力の向上設定は標準化されたものを基本にした方がよい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		・毎月活動プログラムの立案をチームでミーティングして決めている。 ・計画的に活動内容を検討している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		・活動内容は季節行事、近隣の施設に向いているイベント、施設外活動と多岐に渡っている。 ・利用児から取り組んでみたい活動を聞き取りながら固定化されない工夫をしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		・長期休暇明けの平日利用では、疲れをもち越さないようリラクゼーションの活動を取り入れたり、休日では外出活動を企画する等状況に応じて支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		・子どもの状況や人数に応じて、個別と集団活動を使い分けている。人数が少ない時は事業所交流を設けるなど工夫している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		・実施している。 ・支援前にミーティングを行い確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	・ケアコラポ(PCサイトでのケア記録)の活用や送迎後の時間、翌日の朝礼時に情報共有をしている。 ・終了時とは限らず、その都度変更や疑問、注意点を共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		・個人の短期・長期目標を記録時にすぐわかるように提示し、それに基づいて記録している。 ・疑問があったときは、以前の記録を参考にしている。また参考できるよう自分なりのポイント部分を記録に残している。	・個人の短期・長期目標を記録時にすぐわかるように提示し、それに基づいて記録している。 ・疑問があったときは、以前の記録を参考にしている。また参考できるよう自分なりのポイント
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		・実施することで他スタッフとの考えを知る事ができ、自分の思っていた概念と違うことを気付かされる。違った角度から利用児に接することができる。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	2		・創作活動や地域交流、余暇の提供など様々な活動機会を通して支援の質が向上できるよう努める。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		・ふさわしい職員が参加している。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		・学校での状況、感染症の校内での罹患状況などを確認している。授業参観、運動会などに参加し学校内での様子を把握できるよう努めている。 ・送迎時に担任の先生とその日の出来事や注意する点など情報共有をしている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5		・主治医との連絡は特にしていないが、近隣の小児科医と連携を図ったり、マニュアル化したものを常時見れるようにしてある。		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	2		・必要とする対象児はいないが、今後状況に応じて情報提供が出来るよう努める。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5		・現在卒業生無し。 ・対象となる児童はいないが、必要に応じて情報提供が出来るように努める。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3		・積極的な連携とまではいかないが、必要に応じ研修等を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3		・当所と当施設の成人・児童との間で定期的な交流を実施している。 ・障がいのない子どもとの活動機会は無いが、ニーズがあれば検討したい。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		5			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			・送迎時に保護者と共通理解を図っている。また、連絡帳を活用し、情報を共有している。	・送迎時に保護者と共通理解を図っている。また、連絡帳を活用し、情報を共有している。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		5		・ほとんどの利用者の子どもに対しての対応力は、学ぶべきことが多い。	・ニーズがあれば検討したい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			・契約時に運営規程や支援内容、利用者負担等に関して説明を行っている。また、実費負担をいただく活動に関しては事前に説明を行い、了承を得ている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			・保護者から相談がある場合は直接もしくは電話で対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5			・設立して日が浅く、利用者も少ないため現時点では保護者会等はないが、今後保護者同士の連携を持てる機会を意識していきたい。 ・ニーズがあれば検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			・苦情・要望の受付窓口を設置しており契約時、保護者に対して説明を行っている。	・職員一同、誠実に取り組んでいる。今のところ苦情は無いが、後は利用者アンケートなどを活用していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			・活動表やおたよりの発行をしている。	・定期的に事業所通信を発行したり、連絡帳に活動の様子がわかる写真を掲載する等で情報を発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	5				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			・絵カードや写真などで情報伝達の工夫を取組んでいる。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		・地域住民の招待は無いが、敬老の日に地域の老人施設を訪れて手作りのプレゼントを渡すなど利用者同士の地域交流をすすめている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2		・書面で通知している。	・定期的に配布をしていくことで、保護者への周知を強化していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			・実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			・虐待に関する研修に参加した。今後もしていきたい。	・内部および外部研修に参加する等、適切に対応している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			・身体拘束委員会を設置して拘束の廃止に取り組んでいる。	・身体拘束の必要な子どもはいないが、今後のことも考え組織の決定について知っておく必要がある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			・医師から直接指示書は頂いていないが、必要時に保護者から情報をいただいで対応している。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			・事例集は無いが、ヒヤリハット等事故に関する場合は、その日のうちに事業所内でケアコラボ(PCサイト)等を活用し共有できている。		